

ドングリ豊凶モニタリング調査マニュアル

《準備するもの》

- ・双眼鏡（7倍～10倍程度の片手で保持できるもの）
- ・カウンター（手持ちの計数器）
- ・タイマー（30秒でアラームを鳴らすことができるもの）
- ・GPS受信機（位置探索用。スマホの地図機能でも可）
- ・メジャー（標本木の直径測定用）
- ・資料：道路や前回までの標本木の位置が記載された地図
標本木の写真や太さ、備考などが記されたデータ など



《事前準備》

標本木の選定

- ★標本木は調査範囲に散らばるように、また各地点で5本以上選びましょう。
- ★標本木は、樹冠^{じゅくわん}*1に目立った損傷がなく*2、林冠^{りんくわん}*3に達していること、比較的大きな樹冠であること、色々な角度から樹冠を観察できる木を選びましょう。立ち入りが規制された土地には立ち入らないこと。
- ★標本木が決まったら樹種、標本木ごとの識別番号（ID）、胸高直径を記録しましょう。
- ★それぞれの標本木の場所をGPSに記録するか、地図に書き込みましょう。写真を撮ると、次に来るときにみつけやすい。

《計測》

※調査は最も多くのドングリを確認できる時期(目安：10月下旬前後)に実施します。

- ①2人で1組を基本として、30秒間、双眼鏡を覗いて確認できたドングリをカウンターを使って数えます。1本の標本木でそれぞれ30秒間×4回行います。
★見る場所や見る角度を変えて4回の計測を行って、樹冠全体をできるかぎり確認しましょう。
- ②記録用紙には日付、調査地域、標本木ID、測定者名等と各回のドングリのカウント数などを記録します。
★枝の先枯れ、幹の先折れ、樹勢低下などが確認された場合は備考として記録します。

《計測時の注意点》

計測時、双眼鏡で覗くと以下の写真のような虫こぶや未成熟の小さなドングリが見られることがあります。これらは成熟したドングリではないのでカウント数に入れません。カウントするドングリは実の膨らんだ成熟したドングリです。



ドングリと似た形の虫こぶ。中にはスダジイタマバエの幼虫が入っていました。(右下写真)



左のドングリは数えますがその周辺にある小さな未成熟のものは数えません。



赤丸で囲ってある場所の枝についている小さな粒が1年目のドングリです。スダジイは成熟したドングリになるまでに2年かかります。



- *1：樹木の上部で枝や葉が茂っている部分のこと。（左イラストの青色部分）
- *2：台風などで樹冠が欠けていたり、ツルなどで覆われていない木が好ましい。
- *3：樹冠同士が接して連なる森林の上部のこと。（左イラストの赤色部分）

